

福野地域 会議録

件名	福野地域提言実現検討組織 人づくりグループ 第5回会議		
日時	令和元年 11 月 12 日（火）19 時 30 分～21 時	場所	福野庁舎 2 階 201 会議室
出席者	人づくりグループ メンバー：3 名、地方創生推進課：1 名		
内容	・具体的な取組内容の検討		
概要	◆浦井リーダー挨拶 ○前回の会議では、コンソーシアムの創設に向けて、この活動の目的や背景の明文化、及び、この活動の支援者を増やす仕組みについて宿題とする、というところで議論を終えた。今日は、宿題となっていたこの2点について話し合いたいと思っているが、まずは、皆さんにお願いしていた宿題の内容を確認し、目的や背景について考え方を摺り合わせて大まかに文章化したい。 また、以前から機関紙発行について検討しているが、これは情報発信ツールの一つではないので、本格的な検討はもう少し先の話になると考えている。 ◆資料2「今後の取組内容についての意見書」の内容について確認 ◆具体的な取組内容の検討（○…浦井リーダー発言、●…メンバー発言、→…事務局発言） ○事務局への確認だが、今後、我々のこの検討が実現することになり、コンソーシアムの事務局を設置することになった時の必要経費の対応はどのようにすれば良いのか。我々の考えていることはこのメンバーの片手間で出来る仕事ではないので、有償ボランティアの方を頼むなどの必要を感じているところである。 →ランニングコストについて市がどこまでサポートするかということについては、提言実現に向けた進め方として、出来ることから順次予算化していく方針であることを、この提言実現検討会議で当初から説明していたかと思う。市としては、いずれ自立してもらいたいので、当初の1、2年程度については市で予算化して支援していくことになるだろうか。また、確認しておく。 ○実施から2、3年を目処に自立となると、資金面からもしっかりした内容にしないと実施は難しい。市の意向も聞きながら、検討を進めたい。 ○宿題の内容を見ると、「つなぎ、接着剤」というイメージを皆さんが持っているように感じた。今ある団体やモノ等を活用して「一元化した情報にアクセスしやすい位置付け」というのが、皆さんの考えとして一致していると思うが、それで良いか？ ●（全員）異議なし。 ○組織はピラミッド型でなくても良いと思う。実行部隊、事務局を手伝う方が別々に居て、我々は活動の方向性を決める位置付け。団体が横でつながると尚良いかと。 ●例えば、ふるさと教育での講師派遣等で学校等からの依頼があった時の、情報提供や人材の派遣の対応が、多いニーズと予想される。 ○コーディネートまでしてくれるのが、コンソーシアム化の良さになるだろうか。情報収集して、それを提供し、人材派遣する。そして、その他にコーディネートも行う。コンソーシアムの目的は、①情報収集・提供、②得た情報のコーディネートあるいはコンシェルジュ（案内）、ということになるだろうか。 ●得た情報はデータベース化して、次の人につなぐイメージ。そうすると、補助的な人はますます必要だろう。 ○地域のコンシェルジュをたくさん育成すると面白いかも。 ●各分野にはいらっしゃるけど、それぞれはつながっていないのではないかと思います。それぞれの分野の達人や匠の情報を共有すると言うか、人材的な宝の一元化をすることになるだろうか。 ○私も同じイメージを持っているが、いずれにしても、情報収集が大変だし、得た情報の更新も難しい。得た情報の最新化をどのようにするか、自主的に情報の更新・収集が出来るような仕組みが欲しい。そのためには、会員になってもらうためのメリットが重要。それぞれの業界を横断的に結び付けると言うか。そもそも賛同が得られるような目的ではないといけないだろう。 ●そのためには、我々の考えているコンソーシアムの魅力や価値を理解してもらう必要がある。情報の提供、収集、併せて資金確保も出来れば良いが。 ○この取組そのものに価値を見出してもらって、賛同してもらいたいイメージかと。続けるとすればどのくらいの期間か？ ●せめて10年だろう。心折れても、継続することが大切。組織はトップの交代があるが、		

- 個人はそのようなことはない。
- だとすれば、まずは個人を対象にすれば良いか。
 - 例えば、会報送付により、その個人の最新の情報確認は出来るのでは。年配の方だと、メール利用等は難しいかと。
 - 会社・団体単位よりも、個人単位の方が賛同は得られやすいだろうか？
 - そうだと思う。
 - 1業種1個人であれば容易かもしれない。では、人をターゲットにして進めるか。そして、10年継続…。
 - 発想を少し変えて、例えば、人をターゲットにした時に、加入者紹介というか、このようにしてその人の情報を個別に発信していくことがいいのか、それとも、単純にリストにして配布になるのか。
 - 紙というよりも、情報がある程度溜まってきたら、インターネット上で発信すればどうだろう。そのままデータベースにもなるし、必要なら紙媒体にすれば良い。
 - 毎月1、2人増えていくようなイメージ？少しずつ情報を溜めていけばいいのか？
 - 私が宿題で書いた、紹介方式にすれば、比較的情報も集めやすいのでは。
 - 人が人を呼ぶようなイメージか。
 - インターネット上なら、紹介動画を掲載するのも良いかも。
 - ウェブ版で人の紹介をするイメージか。そうなれば、実行部隊となってもらえる人を募集する必要があるだろう。併せて、事務局の役割も変わってくるかもしれない。誰を紹介するかを検討する企画会議を開催し、その方の了解を得て、取材等の実施、記事を書く、インターネット上に掲載、という流れの繰返しで取組むことが出来るだろうか。インターネットに掲載した情報をデータベース化やリスト化していく。誰を取材するかは、人が人を呼ぶということで、紹介方式で行うことにすれば可能だろうか。この方向で話を進めるのでどうか？
 - （全員）異議なし。
 - 宿題の中にあった「教員の協力」とはどういうことか？
 - 学校からのニーズはあるだろうから、協力してもらえるとありがたいという意味。
 - データベースの活用先は様々な団体などになるだろうか。例えば、PTA等のコアなターゲットに知ってもらったり、活用してもらったりするためにも、顔つなぎは重要。
 - 福野は学校が小中1校ずつと少ないから、地域の人とつながるような意味合いでも、幼稚園や保育園にも対象範囲を広げて良いのかも。
 - データベースを活用してもらえそうな団体等としっかりとつながっておきたい。データベースを活用する、しないは先方の自由である。
 - そうすると、各地域づくり協議会とつながることも一案か。福野には協議会が7つあるから、地元にはいない分野の人材が隣の協議会には居る、といった具合で、活用してもらえぬニーズはありそう。
 - 幼稚園や保育園には是非働きかけて、若いパパさんやママさんに福野の様々な事を子どもと一緒に体験しながら学んでもらう、というような教室をしてもらえると良いと考える。
 - 体験出来る内容は、参加者に喜ばれるはず。
 - 福野の魅力を親が分かっていないと、子どもにも伝わらない。
 - 正に、親学び。
 - 例えば、福野以外から嫁がれた方で、勤務先が福野以外であれば、尚更福野の魅力は子どもからしか伝わらないだろう。
 - 人材が網羅出来たら、コンテンツの提供ということで、各団体等に営業に出向けば良いだろう。主な営業先は、小学校、中学校、幼稚園、保育園、地域づくり協議会、PTA、児童クラブ・児童会などになるだろうか。
 - 資金面の話になるが、仮に、機関紙に頼らない場合の必要経費は何になるだろうか。
 - ホームページの掲載費用と学びの場を開催した場合の謝金などになるだろうか。
 - 謝金の場合は、依頼元から謝金相当額などいくらもらって、その額をそのままお渡しする、というルールにすれば良いのでは。
 - 例えば、寄付などをいただいて、依頼元からの謝金にいくら追加した金額をお渡し出来れば尚良しかと。
 - 資金は、自分たちで稼ぐのに併せて、寄付あるいはスポンサー、というのが適当なのではないだろうか。自分たちで稼ぐというのは、まちづくり、人づくりのために使うということを謳って、全く別分野で稼ぐこと。会のPRや会を応援してもらうための仕組みとして、イベントに出店するイメージ。
 - 例えば、この会の企画として、親学びのイベントは無料とするが、自由参加のイベント

は有料にするとか。

宿題だった、①（コンソーシアムの創設に向けて）コンソーシアムの目的・背景の明文化、②コンソーシアムの目的を理解し、サポートしてくれる【支援者】を増やす「仕組み」、③機関紙の発行（資金面・企画面・実行部隊それぞれ）の仕組み、それぞれの大筋が定まってきたらどうか。

●次は、コンソーシアムの理念の検討になるだろうか。人づくりにつながる学びの場をたくさん提供したい。

○基本的には、ホームページでの人材紹介。このホームページでは、福野を知るような内容等、自分たちの理念に合致するような他団体の学びの場の紹介も、リンクを貼る程度に行えたらと思う。

●キーワードは「学び」。福野の達人や匠の方々と連携して学びの場を提供していく、というイメージを持っている。

○例えば、「（仮称）福野（ふくの）学」と銘打って、学びの場のプラットフォームがホームページの中にあるようなイメージ。始めて1～2年は無作為に情報収集し、様子を見ながらその分野を調整していく。5年である程度の情報は集まるだろうから、情報更新を行う。このような流れのイメージだろうか。それを10年継続すると、自分たちのイメージするコンソーシアムにつながっていくイメージ。後は、実行部隊の確保をどうするか。スカウトでもする？

そして、理念をどうするか？文章化するか？キーワード的なものにするか？

●概要図で表現するイメージはどうか。

○福野から人が出て行くのは嫌だが、仮に福野から出て行っても、また福野に戻ってくるというようなことを表現したい。

●地域に対する愛情の醸成なのだから、「学びの場」の色合いをもっと強く出す必要があるだろう。この学びの場を通して、地域の担い手を作り、生きているまちを、元気のあまるまちを目指す。そのために、コンソーシアムという形態を使って、学びの場を提供したり、人づくりをしたりして、福野の魅力を伝えることではないかと。

○素晴らしい！今の発言を基にして理念を考えるのはどうだろうか？

●前回会議のグラレコの木のイメージが分かりやすいのでは。

○このグループは、まちづくりの「根っこ」に当たる部分を取組もうとしている。あの絵の「根っこ」の部分で、敢えて親子で体験出来るようにしていく、というイメージか。それでは、宿題として、先程の発言を基に、前回会議の木の絵をイメージしながら、理念を明文化してくるということでしょうか？

●（全員）異議なし

○次回会議は、理念の検討と合同会議に向けてのまとめをすることとしたい。

◆次回会議

日時…令和元年11月20日（水）午後7時30分から

場所…福野庁舎2階 201会議室

内容…具体的な取組内容の検討

宿題…①（コンソーシアムの創設に向けて）コンソーシアムの理念の明文化：キーワードだけでも可

福野地域提言実現検討会議
人づくりグループ 第5回 R元.11.12(水)

◆(コンソーシアム創設に向けて)
コンソーシアムの目的・背景の明文化◆

① 情報発信

・地域の宝の一元化

⑤ 福野の宝カログ

② コーディネート(コンシェルジュ)

・つないでいく。

コンソーシアムの存在意義を

どのように伝えていくか。(価値・魅力)

・10年継続していけるようにしたい。



考えるコンソーシアムのイメージ

・まずは個人を対象とするか?

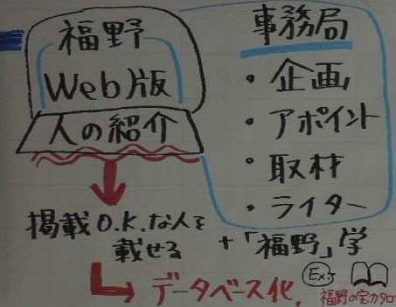
・毎月1人or2人ずつリストが増える

・紹介方式…順番に紹介

Webに載せる

1人ずつ紹介

データベース化



・学べる人材として紹介

→ いずれは営業もするか!?

最低限の経費

・H.P., 謝金(派遣した時)

活動資金を得るための行動

学びの場・活動PR 知ってもら

提供・寄付を募る 応援してもら

◆コンソーシアムの理念◆

人づくりグループ 生きている町

・「ぶくの学」

→ 学びの場のプラットフォームをつくることで
郷土愛を育む。

・福野の魅力をもっと深く知ってもらう。

・福野の宝を紹介する「人」資源の発掘、
データベース化

・人のつながりを深める。

・福野の良さを伝えていく。

・福野を学んだ人が、

地域のために働く人を増やす。

「出来ることがあればやっていきたい!」

と思って行動できる人

件名	福野地域提言実現検討組織 人づくりグループ 第4回会議		
日時	令和元年 10 月 15 日（火）19 時 30 分～21 時 30 分	場所	福野庁舎 2 階 201 会議室
出席者	人づくりグループ メンバー：3 名、地方創生推進課：2 名		
内容	・具体的な取組内容の検討		
概要	◆浦井リーダー挨拶 ○前回の会議では、コンソーシアムを設立する際には、この活動の背景や目的を明確にしなければならない、というところで議論を終えた。今日はこの続きをしたいと思っているが、まずは、皆さんにお願いしていた意見書について意見交換し、具体的な取組内容を検討したい。 ◆資料2「今後の取組内容についての意見書」の内容について確認 ◆具体的な取組内容の検討（○…浦井リーダー発言、●…メンバー発言、→…事務局発言） ○まずは、「どんなジャンルの団体に入ってもらうか」について。団体を対象とする意見もあれば、団体の中の個人を対象としている意見もある。 ●個人を対象にするのは難しいのでは。 ○声を掛けるのは団体、あるいは、任意の小さなグループをイメージしていた。 ●人づくり、つながりづくり、地域づくりを柱として考えると、団体に入ってもらう時の目的をどうするのが重要かと。機関紙が入口となって、団体に興味を持ったり、団体を応援するサポーターが出現したりするということなどが考えられるだろうか。 ○機関紙が目的ではなく、団体につながってもらうための入口だとすると、それが個人の場合は対応が難しくなると思う。 行政に、各種団体のリストなどはないのか？ →まとまった物は恐らく無い。あったとしても、補助金を受けている団体や公共施設の減免登録団体などに限られるだろう。しかも、リストの更新もされていないのでは。何か必要な時にだけ現状を確認するという対応だと思う。 ●心配しなくても、取り敢えず、商業・工業関係は商工会、農業関係は農政担当に確認すれば分かるだろう。 →サークル的なものまでの把握は難しいだろうと思われる。 ●歴史を語れる人が必要。しかし、時の会は活動を休止しているようだ。 ○その他、対象は、文化・芸能団体になるだろうか。 ●福野地域に限定するなら、芸能団体を取りまとめた福野芸能協会があるので、そこで確認出来る。 ○地域の祭りや建造物に関することであれば、観光ボランティアになるか？地域の子供たちに何を語るか。獅子舞は、先日の市のイベントの関係で一覧が作成されており、獅子舞のルーツなども把握出来るだろうが、それ以外の村の行事は、村の長老に聞くしかないだろう。そうやって地域の人にインタビューしていけば、少しずつ全体像が分かってくるはず。年配の方に聞かなければ分からない事こそ取り組むべきと考える。そして、取組む意味をしっかりと決めて、それも伝えていかないと、消滅してしまう。 ●商業・工業・農業は比較的容易だろう。それらについて語れる人はある程度見込める。一方で、歴史・伝統・文化系は大変そう。既に、伝統文化の継承がネックになっている。 ○商業・工業・農業・歴史・文化というのは、階層になっている気がしている。歴史・文化は直接的な魅力ではないけれど、敢えて光を当てることで、他所から来た人にも分かり易くなる。 ●例えば、米国ポートランドが、全米で一番住み易いと選ばれるのは何故かということ。住み易さは氷山の一角であり、その隠れている部分をいかに理解するかが重要。 ○便利さや住み易さは真似出来るが、歴史・文化は真似出来ない。 ●いろいろと情報発信することで、大人に伝えることは出来る。しかし、子どもに伝えるのであれば、例えば、ある課題があって、その課題解決のために子どもを巻き込む、ということでもなければ難しいだろう。新商品の名付けなど。 ○コンソーシアムとは別立てで考えていくべきかもしれない。 ●コンソーシアムが機関紙とどのようにつながっていくか。 ○機関紙がコンソーシアムを知る手立てにはなるだろう。 ●このグループでは、どこをゴールとすれば良いか。 ○機関紙という媒体が、本当にふさわしいのかどうか。子ども向けであれば、紙ではないのではないかと思う。		

- 子どもに特化すると、紙ではないような気がする。いずれにしても、全員には響かないだろうが。
- 学校からたくさんのお便りをもらってくるが、興味を示すようなものがあるか。
- 子どもからの発信はない。親から言うのがほとんど。
- 小学2年生は授業でまち探検をしていて、福野のまちの中を歩いている。そのことはいろいろと教えてくれる。
- 足を運んで、見たり聞いたりしたことが一番記憶に残る。
- 子どもたちには、体験が一番効果的なのではないか。
- 祭りがなくて楽というのも移り住む理由の一つ。多様性というか、積極的に祭りに参加する人もいれば、子どもを通じて参加する人もいるし、全く参加しない人もいる。強制参加ではなく、適度に緩く参加出来るのがちょうど良いのかもしれない。
- 親も一緒に体験するのが良いだろう。体験は、子どもだけでなく、大人にも響く。
- 特に他所から来た方には、何かしら体験する機会があると良いだろう。
- 機関紙を作るとしても、子どもが読めるような内容にしなければならない。あくまでも子どもたちに戻ってきてもらうのが目的。
- そして、次世代の担い手作りにつなげる。
- 資金調達はどうか？スポンサーという意見もあったが。
- 例えば、城端時報では、紙面にたくさんの広告が掲載されており、それらの協賛金が資金源となっているのではないかなと思う。
- 資金調達の話は次回の課題としてはどうか？
- お金を集めるとなれば、お金を出す人の魅力やメリットがないとダメだろう。そう考えると寄付の方が馴染むのか？頻繁に寄付ももらえないが。それとも、趣旨に賛同してもらって、広告料をもらうか。だからと言って、広告主寄りの記事を書くのは、我々の趣旨に反する。
- まずは賛同を得ることが重要だろう。
- サポーターのような、応援してくれる人をどのように集めるか。そうしないと続かない。
- 目に見えるような取組みではないから、なかなか難しい。
- 同じような分野に偏らず、もっといろいろな角度から、いろいろな人が関わって、魅力となる。そう考えると、構想としては、いかに多様なものとするかが肝ではないか。ある一部分だけ、というのでは片手落ちのような気がする。
- 親の姿を見て子は育つ。親の一生懸命な姿は、子に映り、それが次につながると思う。
- 五箇山では春祭りが熱心に行われているが、親の一生懸命な姿が子どもには格好良く映っている。早く親のように祭りに参加したいと思う子どもが多いと聞く。
- 我々の掲げている地域愛も色々だが、地域に戻ってきて、地域のために活躍する子どもを育てたい。
- 親向けの機関紙の発行と子どもが参加出来るような体験活動の実施が有効か？
- 親に響くような機関紙で、且つ、親子で体験活動に参加してもらう、というのが理想的。
- お父さんだけでなく、特にお母さんが気持ちよく子どもを連れて地域活動に参加出来るような家庭環境作りを工夫することも大事。
- 次回の検討内容は、1つ目は資金調達方法。2つ目は、サポーターの獲得方法。思いは大事だが、その他にどんなやり方があるのか。そして、誰の心を掴むのか。どこかに、地域を巻き込んでの事例がないだろうか。
- 小学生、中学生、高校生の中でも、誰をターゲットにするか？高校生では、意識を刷込むにはもう遅いとの話もある。しかし、課題解決策を考えるのには相応しい。意識を刷込むには小学生が適年齢ということになるか。
- 親についても、小学生の親をイメージすればどうか。中学生や高校生の親も対象とすると、幅が広過ぎて、それぞれの世代向けのプロジェクトが必要となる。親子で活動するのは小学生までが多いだろうし。
- 中学生、高校生なら、本人が課題に対する提言をして、その提言を実現する、という内容の方が良いだろう。
- コンソーシアム作りに機関紙が必要かどうかという点もまだ検討の余地があるが、協力者や支援者の集め方を情報収集したい。趣意書のようなものが出来れば良いと思うので、我々の活動の目的や背景を次回までの宿題として、明文化してきてほしい。何となくは出ているけれども、文章化までには至っていない。これは細かい部分で大切になってくる。キーワードや盛り込みたい表現でも良い。
- 福野地域提言実現検討組織の3グループの合同会議をして、各グループの進捗を確認してはどうか、という提案がある。また、年度内に住民向け説明会が出来れば良いと思っている。

●（全員）異議なし

◆次回会議

日時…令和元年 11 月 12 日（火）午後 7 時 30 分から

場所…福野庁舎 2 階 201 会議室

内容…具体的な取組内容の検討

- 宿題…①（コンソーシアムの創設に向けて）コンソーシアムの目的・背景の明文化：
キーワードだけでも可
②コンソーシアムの目的を理解し、サポートしてくれる【支援者】を増やす「仕
組み」についてのアイデア
③機関紙の発行の仕組み（資金面・企画面・実行部隊それぞれ）のアイデア

グループ名：人づくりグループ

1. (コンソーシアムを創設に向けて)**コンソーシアムの目的・背景の明文化：キーワードだけでも可**

- ・地域の魅力（地域の特徴、強み、人、活動など）資源を一元化
- ・子どもたち（大人）に、地域を深く知って知ってもらうための体験事業
- ↓
- 認知を広げる目的のために、広報ツールを作成

2. コンソーシアムの目的を理解し、サポートしてくれる【支援者】を増やす「仕組み」についてのアイデア

- ・南砺市教育委員会など公的機関との連携

3. 機関紙の発行の仕組み（資金面・企画面・実行部隊それぞれ）のアイデア

- | | |
|-------------------|---------|
| ◎資金 | ◎実行部隊 |
| ・スポンサー（企業、PTA） | ・ボランティア |
| ・所属する各種団体から会費を集める | |
| ◎企画 | |
| ・現運営メンバー | |

グループ名：人づくりグループ

1. (コンソーシアムを創設に向けて)**コンソーシアムの目的・背景の明文化：キーワードだけでも可**

- ・「例：福野を〇〇なまちにしたい！」という共通の理念・目標に向かって、それぞれの団体の持つ「強み」「持ち味」を生かす共同体
- ・コンソーシアムは、新しい団体を立ち上げるのではなく、既存の団体の「つなぎ」「接着剤」の役割

2. コンソーシアムの目的を理解し、サポートしてくれる【支援者】を増やす「仕組み」についてのアイデア

- ・「この指とまれ！」方式（やらされ感のない仕組み）
- ・「笑っていいとも！」方式（紹介のリレー）

3. 機関紙の発行の仕組み（資金面・企画面・実行部隊それぞれ）のアイデア

資金面 →福野ファン（FAN&FUN）クラブ →個人会員、法人会員（少額の会費で、一口株主、一口オーナーのようなイメージ。福野在住者も、出身者も。法人会員は、会費納入＆個人会員への特典提供とかしてもらえないかな？）

- ・企画面＆実行部隊 →コンソーシアムの中の部会（インフォ部会）を設置。
- ・ファンクラブ会員からの投稿欄もあつたらいいかも。

グループ名：人づくりグループ

1. (コンソーシアムを創設に向けて)**コンソーシアムの目的・背景の明文化：キーワードだけでも可**

コンソーシアムの理念は作るべき。

例) 地域の魅力を一元化し、地域の魅力を広く発信することによって、地域愛の醸成につなげます

組織は新たに作ると更に煩雑になる可能性がある(既存の組織や会議体だけでも相当な数がある、重複している人もかなり多いので正直どの会議に出ているのかわからなくなっている)ので、事務局的なチームを置き、そこが中心となって一元化を行い連絡調整を行う。

※結構大変かも…… 実務的に何をするのか、どれくらいの労力になるのか、シミュレーションが必要。

2. コンソーシアムの目的を理解し、サポートしてくれる【支援者】を増やす「仕組み」についてのアイデア

・既存の組織には当然協力をしてもらいたいのですが、具体的にその組織にはこれをお願いしたいというのを明確にしましょう。

・ふるさと教育に関することであれば、それぞれのカテゴリの達人を登録し、公開しましょう。(HPを作成して、そこに登録して公開する。)

・教育関係は学校の負担を増やしたくないのですが、やはり先生方には協力してもらいたいですね。これは学校と相談ですが。。

・よくありがちかもしれませんが、

福野のPR動画コンテストを小学校～高校までそれぞれ募集し関わってもらう人を増やす。

機関紙に小学生、中学生、高校生の作ってもらった記事を載せるなど。

3. 機関紙の発行の仕組み(資金面・企画面・実行部隊それぞれ)のアイデア

・資金面が一番ハードル高いのですが、これは企業や市民で志のある方の協賛しかないのでは。福野地域だけに機関紙を印刷し全校配布するだけでも、1回で10万～15万円ほどかかったと思います。(新聞折り込みで)1シーズンの1回の発行だと、50～60万円は必要になってきますね。1人500円の寄付で1,000人。

・実行部隊は福野地域で公募すればいいのでは。それにプラスもちろん私たちも入って。そんなに多くなくてもいいと思いますが、2～3人いて校正や記事の集約。記事の依頼。

小学校、中学校、高校、大人と4回に分けて発行すれば、実行部隊はそこまで必要ないかもしれませんね。

・城端時報?のような息の長い情報発信のツールとして地域に根付けばいいなあ。